



プレスリリース

初期伊万里展

2015年4月4日(土)～6月21日(日)



画像① 染付 竹蝶文 鉢



TOGURI MUSEUM OF ART

戸栗美術館



広報用写真

※以下の展示予定作品の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は注意事項をご覧の上、別紙写真借用申請書をお送り下さい。



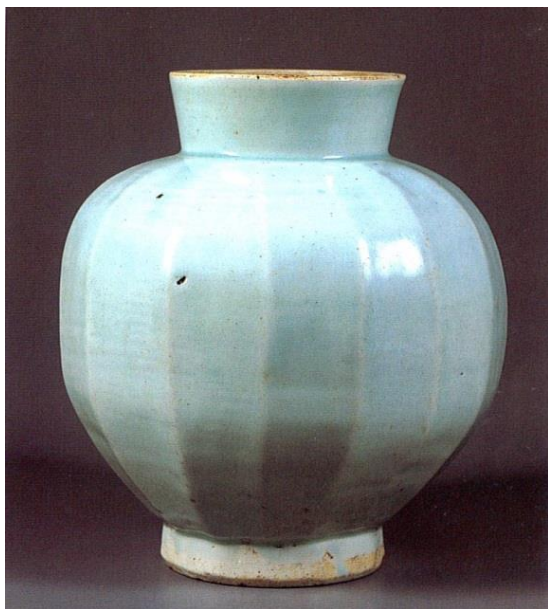
画像② 染付 木賊文 皿
伊万里 江戸時代（17世紀前期）
口径 20.5 cm 戸栗美術館所蔵



画像③ 染付 吹墨白兎文 皿
伊万里 江戸時代（17世紀前期）
口径 21.0 cm 戸栗美術館所蔵



画像④ 染付 山水文 水指
伊万里 江戸時代（17世紀中期）
通高 18.5 cm 戸栗美術館所蔵



画像⑤ 白磁 面取壺
伊万里 江戸時代（17世紀前期）
高 19.3 cm 戸栗美術館所蔵

■（表紙）画像① **染付 竹蝶文 鉢** 伊万里

江戸時代（17世紀前期） 高 10.8 cm 口径 46.5 cm 高台径 12.5 cm

初期伊万里の特徴として、技術の未熟さにより歪みが出たり、器面に灰や塵が付着したり、染付が灰色がかったりする。この大鉢はその典型だが、竹の切り株に^{すすき}薄な^{やんべた}どの草を添え、蝶が舞っている構図が珍しい。山辺田窯の製品と考えられる。

■画像② **染付 木賊文 皿** 伊万里

江戸時代（17世紀前期） 高 4.0 cm 口径 20.5 cm 高台径 9.0 cm

見込いっぱい^{とくさ}に木賊を描いた中皿。茎の節や筋などをよく描写している。初期伊万里の中皿には身近な草花や鳥などを描いたものがあり、この皿も一例といえよう。窯内での塵の焼き付きは見られるが、素地は白く染付の発色も良い。裏面は無文。

■画像③ **染付 吹墨白兔文 皿** 伊万里

江戸時代（17世紀前期） 高 3.6 cm 口径 21.0 cm 高台径 7.0 cm

兎・雲・短冊の形に切った紙を置き、染付を吹き掛けて白抜き文様を浮かび^{ふきずみ}上^{こそめつけ}がらせる吹墨の作品。兎の顔や文字は筆で描き加えている。吹墨は中国の古染付にみられる技法で、初期伊万里にも多く用いられている。^{ひえこぼ}稗古場窯などから類似の陶片が出土。

■画像④ **染付 山水文 水指** 伊万里

江戸時代（17世紀前期） 通高 18.5 cm 口径 12.9 cm 高台径 12.6 cm

竹節形のつまみを持つ共蓋を伴った円筒形の水指。胴に広がる樓閣山水は、濃淡を付けた染付の効果により一層の情趣を感じさせる。蓋表にも山水図を描く。素地や釉^{ごす}は理想的に焼成され、艶やかな磁肌に呉須色が鮮やかに映えている。

■画像⑤ **白磁 面取壺** 伊万里

江戸時代（17世紀前期） 高 19.3 cm 口径 9.3 cm 高台径 8.8 cm

頸の長い^{こしきぐち}甕口で、胴部を14に面取した白磁の壺。白磁釉は鉄分を含むために青味がかかる。このように面取の多い器形は李朝の壺によく見られるもので、李朝と伊万里焼の関係を感じさせる作品である。

以上を含む、約 80 点を展示予定。

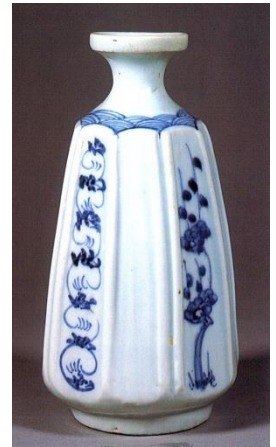


展覧会概要

17 世紀初頭、佐賀・有田地域において日本初の国産磁器として誕生した伊万里焼。その創始は、豊臣秀吉の文禄・慶長の役（1592－98）の際に連れ帰られた朝鮮人陶工伝来の製磁技術にあると考えられています。1610 年代から色絵の登場する 1640 年代までに生産された製品は「初期伊万里」と呼ばれ、形の歪み、フリモノの付着や窯キズ、素地や染付の不安定な発色などの特徴に、草創期らしい技術の未熟さが表れています。また装飾の面では、当時国内で需要の高かった中国磁器に倣い、早期から染付技法が用いられ、描かれた意匠にもその影響が見受けられます。

当初磁器（伊万里焼）は、陶器（唐津焼）と同窯で焼成されていましたが、寛永 14（1637）年の佐賀鍋島藩による窯場整理・統合政策後、磁器中心の生産体制が確立されました。この政策以降、技術の向上により、皿や瓶類に加えて口径 40 cm を超える鉢などの大作も製造されるようになったと考えられています。

今展では、初期伊万里約 80 点と窯跡出土陶片をあわせて展示し、磁器の誕生からその品質向上に注力した 17 世紀前半の伊万里焼の様相をご紹介致します。



染付 梅樹花唐草文 瓶 伊万里
江戸時代（17 世紀前期） 高 19.4 cm
小溝・天神森窯で同類の陶片が出土。



展示詳細

◆伊万里焼の創始

伊万里焼の創始は、1610 年代、日本へ連れ帰られた朝鮮人陶工たちによって有田・泉山で磁器の原料となる陶石が発見されたことから始まり、当初は陶器（唐津焼）と同じ窯で磁器（伊万里焼）を焼成していました。草創期の窯は現在の有田町西部にあり、小溝窯などからは朝鮮の窯詰め法である「砂目積み」を用いた陶片（右下図）も出土。朝鮮伝来の製磁技術から伊万里焼の製造が始まったことがわかります。しかし当時日本国内で求められたのは、艶やかな白い器面に青い文様を描いた中国磁器。伊万里焼では早期から中国磁器の技術に倣い、呉須を顔料として絵付けを施した染付磁器が製造されました。

草創期にあたる 1610 年代から 1640 年代に製造されたものは「初期伊万里」に分類され、歪んだ形や全体に灰味がかった発色、器面のフリモノやキズ、貫入など、この時期特有の様々な特徴が表れています。それらは原料の精製不足、焼成不足など、技術の未熟さがもたらしたものであり、初めての磁器製造に対し陶工たちが試行錯誤して取り組んだ様子がうかがえます。



小溝窯出土陶片



画像① 染付 竹蝶文 鉢
口径 46.5 cm 高台径 12.5 cm

■右上(中央拡大): 器面には無数のフリモノ。焼成時に窯内の天井や壁面から降った塵などが器面にかけられた透明釉に付着したもの。

■左下(裏面): 口径の4分の1程度しかない、初期伊万里の大鉢の中で極めて小さな高台。周辺には大きな歪みが見られる。

◆初期伊万里の華 一大鉢—

寛永 7 (1637) 年、佐賀鍋島藩は窯焚き用の薪材確保のために山林が切り荒らされているとして、伊万里・有田地域の陶工・窯場を削減する政策を実施します。結果、日本人陶工 826 名が追放され、窯場は 13 ヶ所に統合。これにより磁器(伊万里焼)専業の生産体制が整うこととなりました。初期伊万里の華とも言える口径 40 cm を超える鉢などの大作は、この政策以降に製造されたものと考えられています。

皿や瓶などの器種と同様、全体に灰味がかかった発色やフリモノ、貫入などが見られます。初期伊万里では総じて高台は小さくつくられています、特に大鉢では口径の3分の1~4分の1程度しかなく、焼成時に大きく形が歪んでしまった例もあります。

◆様々な装飾技法 一白磁・青磁・錆・瑠璃—

初期伊万里の中心となるのは、中国磁器に倣った白磁に青で文様を描いた染付製品ですが、そのほかに文様を描かず透明釉のみをかける白磁(右図)、釉薬に1~2%の鉄分を加えることで淡い青色に発色する青磁、鉄分を10%程度含んだ錆釉、染付同様に顔料の呉須を透明釉に混ぜた瑠璃釉などの製品も見られます。また、それらを併用して複雑に塗り分けたものも製造されました。



画像⑤ 白磁 面取壺

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

■ 34 word

技術の未熟さがうかがえつつも素朴な魅力のある初期伊万里約 80 点を紹介。

■ 106 word

17 世紀初め、佐賀・有田地域で生まれた初の国産磁器である伊万里焼。草創期に製造された初期伊万里には技術の未熟さがうかがえつつも素朴な魅力がある。初期の製造窯や窯跡出土陶片と共に大鉢や皿・瓶など約 80 点を紹介する。



展示解説

展示期間中、第 2 週・第 4 週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行います。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第 2・第 4 水曜 午後 2 時～ （4 月 8 日・22 日、5 月 13・27 日、6 月 10 日）

■第 2・第 4 土曜 午前 11 時～ （4 月 11・25 日、5 月 9・23 日、6 月 13 日）

※各回、約 40 分～50 分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話（03-3465-0070）による事前予約制。

お気軽にご連絡くださいませ。



外国語展示解説（英語）

展示期間中、外国語の展示解説を行ないます。

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。



G W 特別企画 やきものの展示解説 入門編

陶器と磁器の違いといった初歩から始め、伊万里焼の歴史などを陶片を触りながら学んだ後、「初期伊万里展」をご案内致します。初心者の方もお楽しみいただける入門編の解説になります。予約不要。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■5 月 2 日（土）～5 月 6 日（水） 毎日午後 2 時～（所要時間約 60 分）

☆参加者には「初期伊万里展」の見どころをまとめたリーフレットをプレゼント

< 昨年の様子 >





戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、当館創設者・戸栗亨が長年に渡り蒐集しました陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



会場 : 戸栗美術館

開館時間 : 10:00~17:00 (入館受付は16:30まで)

休館日 : 月曜日

※ゴールデンウィーク期間中の5月4・5・6日は開館、翌5月7日(木)は休館。

入館料 : 一般1,000円/高大生700円/小中生400円(団体20名様以上で200円割引)

交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩15分/京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
※当館には駐車場・駐輪場はございません。

■Youtube 戸栗美術館チャンネル

<http://www.youtube.com/channel/UCGsnhei61hDkvDQlftWy9ZA>

■次回展示予定

7月4日(土)~9月23日(水・祝)

『古九谷展』



■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp



アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。1年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費 ￥5,000（税込）／ 発行から1年間有効

※有効期限内のご更新は、4,500円です。

（期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5,000円となります）

- 特典① 入会から1年間、何回でもご入館いただけます。
- 特典② ご入会時に戸栗美術館オリジナルグッズをプレゼント。
（はがき5枚、A5クリアファイルのどちらかをお選びいただけます）
- 特典③ 年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。
- 特典④ 展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順）
- 特典⑤ 会員様を含めた3名以上の団体様は、学芸員による展示解説〈ミニツアー〉を受ける事ができます。（随時予約受付、所要時間約30分）
- 特典⑥ 各展示に1回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（参加費1500円、所要時間約3時間半、要予約・定員制・先着順）
- 特典⑦ 企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、招待券2枚、展示ご案内チラシをお届けいたします。
- 特典⑧ ミュージアムグッズを価格の1割引きでご購入いただけます。
（一部除外品あり）